

事業報告書（令和7年度）

事業名 爺婆の孫プロジェクト「岡山弁の町 PR 大作戦」

団体名 ゴールデンリバー53 担当者名 友谷 清志

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）
A) 岡山方言番付の幟旗設置 <ul style="list-style-type: none">○ 令和7年7月7日（月）～現在も設置○ 岡山市北区建部町建部上／八幡温泉郷駐車場○ 岡山方言番付の東西横綱・大関・関脇・小結を2本ずつ計16本設置し、岡山弁の町・建部をPRした。
B) 出前講座（ワークショップ） <ul style="list-style-type: none">○ 令和7年6月27日（金）○ 和気郡和気町／和気閑谷高等学校○ 「Web 岡山弁かるた」によるクイズや邦楽の歌詞を岡山弁翻訳するなど、方言文化の伝承活動を行った。
C) RSK 秋の tenjin ふれあいまつり <ul style="list-style-type: none">○ 令和7年11月2日（日）○ 岡山市北区天神町9-24／能楽堂ホール tenjin9○ 童話・桃太郎の「岡山弁朗読」や「Web 岡山弁かるた」によるクイズなど、かいじょうと一体となり三世代交流した。
2. ESD の視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか ABC 何れの活動に関しても「岡山方言番付」を活用したことで、地域文化である方言を認識して頂いたと感じる。特に、和気閑谷高等学校では、デジタルネイティブ世代の高校生たちから、方言文化伝承に対する気運が高まったことを受け取った。
② どのように学び合いを取り入れたか 私たちの活動は、「地域文化を三世代で紡ぐ」を念頭に置いているため、参加者同士が方言を通じて地域文化を学び合うことが重要である。 八幡温泉駐車場を訪れた方々が、岡山弁の幟旗を見て方言文化を感じて、岡山弁の町・建部を認識すること、和気閑谷高等学校では、高校生たちが方言伝道師と交流することで方言文化に触れること、また、RSK 秋の tenjin ふれあいまつりでは、三世代交流したこと

<p>など、岡山弁の「うったて」が実践できた。「うったて」とは、はじめの一步である。</p>
<p>③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか</p>
<p>建部町が岡山市と合併し、更に岡山弁協会が解散したことで、「岡山弁の町・建部」のことは過去のこととして忘れ去り消えかけていた。今回、岡山弁の幟旗を建部観光の拠点となっている八幡温泉郷駐車場に設置したことで、訪問される方々、特に建部地域の方々から「岡山弁の町・建部」を再認識したと伺った。</p> <p>県内の高校では、社会貢献活動を実施する学校があり、今回は、元岡山弁協会会員の出身校からオファーがあったが、これは昨年行った「岡山方言番付」がきっかけとなった。</p> <p>「RSK 秋の tenjin ふれあいまつり」は、昨年に続き 2 回目の参加となったが、方言文化の伝承活動において、単発イベントへの参加ではなく、地域文化活動の祭典への継続参加は重要であると感じた。</p>
<p>3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）</p>
<ul style="list-style-type: none">○ たけべ古道から八幡温泉郷の駐車場へ変更して設置したが、建部観光の拠点となっていることから、古道や温泉、めだかの学校等を訪れる皆さんに、「岡山弁の町・建部」が PR できた。また、建部地域の方々にとって、忘れかけていたことを思い起こすキッカケとなった。○ 和気閑谷高等学校での出前講座（ワークショップ）は、私たちの活動にとって大きな成果となった。地域文化に世代は関係なく、世代を超えること、また世代間で交流することの重要性が認識できた。○ RSK 秋の tenjin ふれあいまつりでは、昨年と比較すると、岡山弁クイズを積極的に解答してくれた子どもたちが増えた。しかも、方言をちゃんと理解していたこと嬉しく思う。素晴らしい○ Web での三択クイズは、システム上の制約（クイズメーカー）があり、参加者の集計は出来ずではあるが、これまでのページビュー数は 2,591、プレイ回数は 331 であった。
<p>4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）</p>
<ul style="list-style-type: none">A) 「岡山弁の町・建部」の復活に向けて活動を継続して行きたい。建部が岡山弁の町として、聖地巡礼されることを願う。B) 「出前講座」は、方言文化だけに限らず行いたい。来年は私たちの母校である岡山御津高等学校で「岡山弁講座」が実施できないか、校友会を通じてオファーしたい。C) 「RSK 秋の tenjin ふれあいまつり」に関しても方言文化にだけ限らず、地域文化をテーマに継続参加して行きたい。 <p>以上のように「方言文化の伝承」をメインテーマに活動しておりますが、今後は、地域文</p>

化を深掘りし、例えば、私たちの母校（金川高校や旧制学校まで含む）を卒業した坪田譲治さんなど、「地域に根付く郷土の偉人」のことなども語り継ぎたいと思う。

坪田譲治さんのことを少し調べて見ると、作品の中で岡山弁の素朴で温かみのある響きを活かし、子どもたちの世界や自然描写を豊かに表現しているようだ。映画になった作品もある。奥深く興味を注がれる。坪田譲治さんは、「方言はその土地の土の匂いがするものだ」と考えていたようだ。金川中学校で過ごした時代、旭川のせせらぎを聞きながら耳にした周囲の会話が、そのまま彼のペンを通して文学へと昇華されている。

間違いなく来年のテーマは「坪田譲治」さんになる。(仮称)「坪田流・岡山弁の魔法」として、坪田譲治の世界を描いてみたい。紹介して行きたい。

岡山方言番付看板の幟旗設置：八幡温泉郷駐車場（令和7年7月7日）





出前講座（ワークショップ）：和気閑谷高等学校（令和7年6月27日）



岡山弁の方言監修、指導とは

1. 脚本を岡山弁に書き換える
 - ・自分さんの表現の半割りとなる言い回しを考える
 - ・岡山弁らしさを守りながら、全国の観客の方にも意味が分かるような表現



RSK秋のtenjinふれあいまつり：RSK能楽堂ホール（令和7年11月2日）



